

ベートーヴェン「第九」アジア初演の地・徳島



徳島県がベートーヴェン「第九」アジア初演の地であることを、ご存じですか？

ベートーヴェン「第九（交響曲第9番ニ短調作品125「合唱」）」は、敵国同士が戦争を乗り越え、育まれた友愛の精神を示す、まさに「平和の象徴」と言われています。

前回の連載でも紹介させていただきましたが、徳島県鳴門市にあった「板東俘虜収容所」において、第一次世界大戦時、ドイツ人捕虜との地元住民との間に生まれた奇跡の交流が生まれました。その中で、1918年6月1日、ベートーヴェン「第九」を演奏したことが、アジア初演とされています。このことから、徳島県鳴門市では、国内で初めて演奏された6月1日を第九の日と定めています。



また、徳島県では、アジア初演から100年後の2018年2月に、「100周年を祝う第九演奏会」を開催し、ドイツ・ニーダーザクセン州の高校生100名をはじめ国内外約3,000名の大

合唱団による歓喜の歌声を高らかに、世界に向けて発信しました。

現在、ベートーヴェン「第九」は日本の年末の風物詩となるくらい有名な曲となっています。皆様も、「第九」を聴かれたときには、是非「『第九』 アジア初演の地・徳島」に思いを馳せていただけたらと思います。

★YouTube 動画：(9. Sinfonie) Der Ort der Erstaufführung Asiens: Die Ode an die Freude erschallt in ganz Tokushima.

<https://www.youtube.com/watch?v=iedZGGUhb4Q&list=PLItm7GI5C9K9AEUf6Rqg3NL5yEq1UBRyV&index=16>